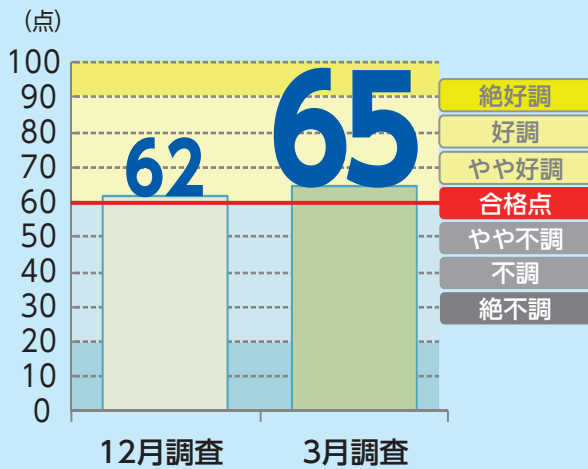


景況感調査「沖縄点気」～2012年3月調査～

～65点で合格点をクリア マンション販売等を中心に好調な建設関連～

今回の3月調査では、前回12月調査から3点上昇し、2調査連続で合格点の60点を超える65点となった。分野別でも、消費・サービス関連、観光関連が好調を維持し、建設関連に回復傾向が確認できた。経営者の景況感も前回より1点上回っている。先行きの社会情勢では、観光を中心に明るい材料が多く、県内の景況感は一層向上傾向を維持しているようだ。



関連分野別動向

観光関連

前回 67点 → 今回 67点

修学旅行客が九州へシフトしつつある。今年は複数のホテルがオープン予定となっており、団体客受け入れの分散化が懸念される。また、予約の間際化が顕著に見られ、予測が難しくなっている。今年は復帰40周年のイベントやLCCの就航など話題が豊富なので、これらの集客効果を期待する声もある。

建設関連

前回 55点 → 今回 59点

建設関連では、一戸建て住宅の需要が順調に伸びている。業界では一括交付金の活用による学校など公共施設の建替え需要の前倒しに期待がみられる。

食品関連

前回 60点 → 今回 61点

外国人観光客の土産購入により売上を伸ばしている事業者もある。製造現場では小麦粉価格が下がったが、原油価格高騰の影響でどこまで消費者に還元できるのか不透明な状態にある。

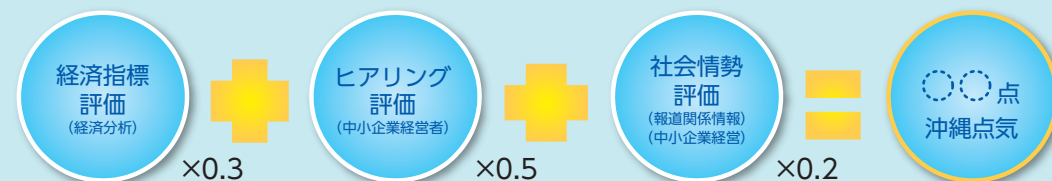
消費・サービス関連

前回 65点 → 今回 71点

昨年は震災やタイ洪水で大きな影響があった自動車販売だが、今年は製造現場が完全復活したこと、エコカー減税の復活により大幅な販売増を計画しているようだ。

沖縄点気とは

経済指標評価、県内企業30社程度へのヒアリング調査、社会情勢評価など、独自の手法により、それぞれ100点満点で評価し、加重平均することにより沖縄点気を算出。



経済指標評価

59点
(12月調査)

59点
(3月調査)

	12月調査	3月調査
経済指標評価	59点	59点
観光関連	72点	61点
建設関連	41点	51点
食品関連	54点	39点
消費・サービス関連	67点	72点

ヒアリング評価

修学旅行などの団体を受け入れる宿泊施設の増加により、宿泊先の分散化が始まっている。建設関連では、一括交付金の活用による学校など公共施設の建替え需要に期待がある。一戸建て住宅建設は順調に推移している。食品関連では、小麦粉価格が値下がりしたが、原油価格の高騰があり、消費者への影響が不透明な状態にあるようだ。

※2011年12月調査時の点数が”-”の事業所は、前回調査非対応先

62点
(12月調査)



63点
(3月調査)

指標(点数)の見方

12月調査時の点数 → 3月調査時の点数 → 3か月後の点数

59点
(12月調査)

57点
(3月調査)

観光関連

「ホテル」 50点→50点→50点	全体的に減少が目立つ。特に修学旅行などの団体客減少は、九州へのシフトや、県内のブランドホテルでの受入れ開始などが要因だと思う。さらに今年は複数ホテルのオープンが予定されており、供給過剰による宿泊先の分散化が懸念される。
「ホテル」 60点→70点→70点	2月にはキャンプやスポーツコンベンションに参加する団体客を受け入れたことから、例年に比べて稼働率、売上、客単価ともに上昇した。また上海、香港、韓国からの観光客が増加している。
「ホテル」 45点→50点→65点	ホテル客室数の増加による、客単価の下落が著しい。また、予約の間際化が顕著になってきており、予約の予測が難しくなった。実際、5、6月の動きはまだ把握できていない。今年は復帰40年のイベントやLCCの就航など話題が多く、カンフル剤的な効果に期待したい。
「旅行」 60点→60点→70点	Webでのホテル予約やアクティビティ（ダイビングや観光バスなど）分野などが堅調に伸びている。ただし、観光関連業からの広告費は前年割れ。また、昨年同様、今年もジャイアンツのキャンプがあったため、キャンプ開催による集客には一定の効果があった。
「交通」 80点→50点→65点	観光バスについては1、2月累計で10%の売上減少。個人旅行へのシフト、航空機の提供座席数減少で、団体客の座席確保が困難なことも要因の一つだと思う。今後予定されている修学旅行の受入れや、中華圏からのクルーズ船寄港効果で団体客の減少を補完している。
「レンタカー」 70点→65点→65点	個人旅行化が進んでおり、ホームページからの予約が増えている。数年前までは1割ほどであったが、現在は約半数になっている。LCC就航により、旅行会社による一括手配から、個人による分散した手配が増え、ホームページからの予約割合がさらに増加すると予想される。
「ウェディング」 50点→55点→60点	県外窓口から海外への送客が減少しており、10%の売上減。県内市場は横ばいの状況だが、海外大手ホテルのホームページからの受入れを企画・実施し、海外客誘致は順調に行っている。国内LCCの就航と中華圏からの新規路線就航などは好材料。

建設関連

「建設資材」 47点→50点→50点	新国際線ターミナルビル建設工事の動向を注視している。しばらく攻勢を強めていた本土の鉄鋼大手の動きが弱くなってきたと感じる。今年度は一括交付金の使途として、学校など公共施設の建替え需要が前倒しであると期待している。
「建設資材」 60点→60点→60点	売上は伸びているが、利益確保が課題。建築費が比較的安い木造住宅の伸びが著しく、コンクリート住宅がメインの当社にも少しずつ影響が出始めている。若い人の住宅取得予算は1400～1500万円程度。この金額では木造住宅が優位となり、コンクリート住宅は太刀打ちできない。
「建設」 60点→60点→60点	一括交付金に対する期待感はあるが、建設分野に関しては同業他社が多いためすぐに業績につながるという楽観視はできない。ただ、一括交付金が観光産業を牽引する材料になればよいと考えている。基幹産業である観光産業が潤えば景況感も高まり、設備投資として建設業界にも波及効果が期待できると思う。

62点
(12月調査)

64点
(3月調査)

「建設」 60点→60点→60点	浦添市内にマンションを建設中。まだ基礎工事の段階でモデルルームもないが、既に5戸を販売できた。地域がら、一戸建てに比べて購入しやすい価格帯を設定したことや、モノレールが将来近くを通る交通の利便性などが、良い反響につながっているかもしれない。
「マンション」 60点→70点→70点	売上は順調に伸びている。中城村にマンションを新設中。3月中旬よりHPなどで順次プロモーション予定。上層階では間取りの変更が可能であることや、同地域で一戸建てを建設するよりは、安価で眺望もよく、セキュリティーの良さなどをアピールしていきたい。
「住宅」 80点→80点→80点	目標通り前年比10～15%増の売上は達成できそう。県内数カ所で展開している分譲住宅も順調。背景として、昨年度末に各金融機関の金利優遇などで、住宅取得しやすい環境となっているのではないかと。また木造住宅がかなり浸透してきている。
「不動産」 70点→65点→65点	全体的に契約件数は増えているが、震災の影響により転勤が減っており、社宅関連の契約数は3割減少した。空き部屋対策なども実施しており、那覇市内では一部地域を除き空き部屋率はかなり改善した。若者向けの物件では部屋の内装次第で入居率をあげることができる。

62点
(12月調査)68点
(3月調査)

食品関連

「食品製造」 50点→70点→70点	業販（居酒屋への売上）、観光土産品、小売の全てのチャネルで売上は持ち直し傾向。企業の周年祭や、復帰40周年の記念イベントなどで、今後も売上は期待できそう。一括交付金で、泡盛関係の予算がついたので今年度以降、新しい動きに期待したい。
「食品製造」 70点→70点→80点	クルーズ船の寄港等に伴って中国系観光客の来店が増加中。お菓子の製造・販売と飲食部門があるが、飲食部門があることで、ツアー客への昼食の提供および観光客の集客、ひいてはお土産としてのお菓子の販売につながっている。
「食品製造」 80点→73点→70点	定番の既存商品のサイズを小さく食べやすくしたり、いろいろな種類の商品の詰め合わせなどの、新商品の売上が伸びている。購入単価が下がっている一方で、販売店からは、3000～5000円の高価格帯の商品の要望が増えてきている。
「食品製造」 60点→55点→60点	国産に比べ安い輸入菓子が売れなくなってきた。上昇傾向にあった小麦粉価格だが、4月より政府の供給価格が下落した。小売価格に反映させるまでには数カ月かかるが、イラン情勢による原油価格高騰のため、どこまで消費者に還元できるのかは不透明な状態だ。
「漁業」 65点→60点→65点	1月と2月については、水揚げ数量、売上金額ともに約10%増となった。人気の高いメバチマグロの漁獲量が前年比より1.5倍と増えたのが要因。
「農業」 50点→80点→80点	農作物の生育もよく、売上は好調。去年の台風被害で得た教訓を活かしたリスク回避策も順調に進んでいる。たばこ栽培は減反になってきている。宮古島のさとうきび農家では、夏場の台風リスクを回避するため、さとうきび栽培から芋栽培へ変更する農家が増えてきている。

63点
(12月調査)66点
(3月調査)

消費・サービス関連

「外食」 90点→80点→80点	売上は順調に推移。特に国際通りに展開している飲食店では、すでにこの秋の予約が入り始めている。また、旭橋周辺の再開発や宜野湾で大型ショッピングセンターがオープンすることもあり、飲食店の新しい動きに注視していきたい。
「小売」 45点→55点→60点	倭約志向の高まりから、ディスカウントストアの需要が伸びている。その対応策として、プライベートブランドの構成比や質を上げ、商品競争力を増す動きがある。また、アクティブなシニアをターゲットとした上質の衣服や、ホビー用品などの商材を増やしていく動きもある。
「中古車販売」 60点→60点→60点	第3のエコカーといわれる軽自動車を多く仕入れたが、売れ行きがあまり良くない。ワゴンタイプが売れ筋の中で、通常の乗用車タイプであることも消費者にあまりインパクトがないようだ。軽自動車ではエコカー減税の効果は感じられない。
「自動車販売」 55点→60点→80点	新型のハイブリッドカーの予約が好調。業界全体としても、エコカー減税・補助金の復活により売上は好調。タイ洪水の影響からも回復し、車両の供給体制が整ったことで、今後は昨年買い控えられていたレンタカー向けの需要が期待できそう。

「エステ・スパ」 50点→70点→75点	1～3月期の売上は前年比150%増。テレビショッピングは不調で、商品をサロンでの対面販売に方針転換した。中国からエステ技術習得の要望があるが、日本と中国の商習慣の違いから、日本と同じ形態でエステ業を営むのは難しいと思う。
「IT」 一点→65点→70点	株主の国内有力取引先から、データセンター事業を中心に、県内で仕事を受託できる体制づくりを進めている。iPad向けの業務アプリ開発の需要が増加している。一方、携帯ゲームなどのコンテンツ開発は飽和状態となり、淘汰が始まっている。
「IT」 70点→70点→75点	今季は比較的売上が好調だったが、来期以降は売上確保に向けた新規開拓も必要となる。震災後、この業界は低迷すると覚悟していたが、実際は違った。年明けからは、本土方面から人材を探す動きが出始めており、全体的に景気が良くなってきているように感じる。

社会情勢評価

観光予算の大幅増や、LCC就航、復帰40周年事業など観光関連は順調に推移するとみられる。建設関連は住宅販売などが好調だが、復興需要の本格化に伴い人出不足が懸念される。食品関連ではどの程度、原油高騰の影響出てくるのか不透明な状態。消費・サービス関連では、自動車製造が完全復活し、エコカー減税・補助金と合わせ、大幅な販売増に期待がかかる。

68点
(12月調査)70点
(3月調査)

観光関連

80点
(12月調査)80点
(3月調査)

※参考：ヒアリングによる見通し評価63点

- 2012年度 県観光予算 96億円 3.3倍
- 円安傾向を受けての旅客の海外流れ減少と、海外競合地との価格差縮小
- LCC就航による旅行の低価格化で観光客増加への期待
- 島サミット開催による国内外からの関係者来沖等によるホテル需要増加
- 復帰40周年事業による集客



- 新たに数件のホテルが開業予定、宿泊客分散化で客室稼働率低下の懸念
- 航空機の座席数減少による団体客の減少

建設関連

60点
(12月調査)60点
(3月調査)

※参考：ヒアリングによる見通し評価64点

- 一括交付金の活用による公共施設の建替需要前倒しへの期待
- 木造一戸建て住宅のシェア拡大
- 豊見城東道路、浦添北道路など2012年度事業開始



- 建設資材価格の高止まり
- 震災復興需要の本格化に伴う人手不足

消費・サービス関連

65点
(12月調査)70点
(3月調査)

※参考：ヒアリングによる見通し評価71点

- 使用済みブラウン管ガラスを利用した、放射線遮蔽材の開発～放射線汚染廃棄物の格納容器などへの利用期待の高まり
- francfranc、ドンキホーテ等小売りチェーンの沖縄進出
- (株)トリムの廃ガラスの再資源化技術の台湾への輸出開始
- 好調な新車販売



- 増税を見越した消費マインドの低下
- 大きな改善が期待できない雇用者所得

食品関連

65点
(12月調査)68点
(3月調査)

※参考：ヒアリングによる先行きの点数71点

- 香港で「沖縄『食』祭」を開催。県産品の商流構築に期待
- 県内大手流通業者による地産地消推進



- 泡盛製造業者 表示違反で優良県産品認定取消し
- イラン情勢による原油高騰